



とっかい ~やさしさをはぐくむ~

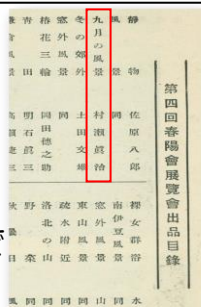
『流水画家 [村瀬真治] を知る!』編

協力：紋別市立博物館 業務係長 小林健一氏

皆さん！紋別を代表する画家『村瀬真治』をご存じですか？
今回の生涯学習情報誌「とっかい」では、村瀬真治の人生や独創的な画風の秘密に迫ります。

村瀬真治の口ぐせである「美とはバランスとリズムとハーモニー」は愛知工業学校で、日本で初めてのデザイン指導書とも言える〔一般図按法〕の著者、小室信蔵先生から学び、「デザイン」が村瀬真治の原点となっています。

大正 13 年(1924 年)学校を卒業後、横浜の実家に戻り、独学で美術を研究。19 歳のある日、日記に「私は画家になるのだ」と決意表明をしたのです。目標を美術団体「春陽会」出品に決め、大正 15 年(1926 年)『九月の風景』で第 4 回春陽会に入選を果たしました。



村瀬真治は明治 39 年(1906 年)10 月 9 日、横浜に生まれ、子ども時代を横浜、三重県桑名、愛知県瀬戸、名古屋で過ごし、この頃から絵が好きでした。

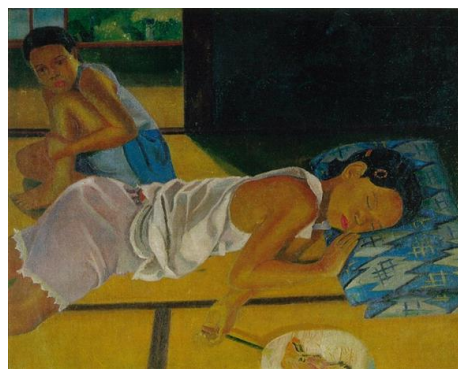


大正 8 年(1919 年)小学校卒業。同年、愛知県立愛知工業学校図案科(現在のデザイン科)に進学しました。

(※写真は愛知工業学校高学年時)

昭和 2 年(1927 年)第 5 回春陽会に『早春の丘』で連続入選。続いて政府主催の展覧会である帝国美術院展覧会(帝展)に初出品で見事入選をつかみ取りました。※当時の新聞記事には、22 歳の天才画家「村瀬真治」は 10 歳の妹をモデルにして、1 か月で完成させたと満面の笑みをたたえて語ったと掲載されています。

【2 度目の帝展入選】



1927 年(昭和 2 年)
第 8 回帝国美術院展覧会入選『少女午睡』

昭和 4 年(1929 年)の第 10 回帝国美術院展覧会(帝展)でも、妹をモデルにした『紫日傘』を出品し再度入選しました。

師 牧野虎雄との出会い

帝展初入選の頃、終生の師となる牧野虎雄と出会いました。牧野虎雄は明治 23 年(1890 年)生まれ、現在の東京芸術大学美術科に入学し、在学中に文部省美術展覧会(文展)に 2 点が入選して注目を浴び、卒業後は文展特選を経て 32 歳で帝展審査員となり、後に美術教育者としても多大な功績を残しました。

村瀬真治は牧野虎雄の門下となり、その後は槐樹社、旺玄社での活動が中心となりました。あらゆる面で牧野先生から影響を受けましたが、手取り足取り教わったわけではなく、**絵を描く「こころ」を教わった**といひます。

牧野先生との交流を通して「**芸術というのは人間そのもので、人間としての深さ、広がりというところからこそ、本当の芸術が生まれてくるのだ**」と思うに至りました。

牧野虎雄は、いち早く自然を還元して、自分の眼で確かな色として表現し、皆が流行に従って厚塗りをしている時に、さっと離れて、薄く塗り、彩度や明度を大切にした人でした。

牧野虎雄 (1890年-1946年)



第12回文部省美術展覧会特選『麦扱く農夫等』
1918年(大正7年)新潟県立近代美術館蔵

村瀬は昭和4年(1929年)、叔父と叔母のいる北海道上富良野に活動の場を移しました。そこで、牧野先生にこんな手紙をあてています。

「雪は白いと言いますが、私は赤く描いてもよいということに初めて思いました。そうです、先生、雪でも雲でも**自分の色を発見して描いていい**のですね、私はこの真理を発見いたしました。うれしいことです。」

※上記は、のちの流水画に現れる「色」に対する自由を獲得したことが分かるエピソードです。

槐樹社では、同門の画家の中に皆さんご存じの「棟方志功」がいました。展覧会で村瀬真治と棟方志功の作品が並べて展示されたこともあります。

[第八回 槐樹社展覧會出陳目録 (昭和6年)]

村瀬真治 (1906年-1987年)



『老嫗』1931年頃

詩	少	老	水	男	街
	年				
物	像	鑑	圖	像	上
小	森	棟	山	陳	
泉	田	方	口	植	
秀	眞	志	勝	植	
松	治	功	三	棋	

棟方志功 (1903年-1975年)



『門世の柵』1972年(昭和47年)

・・・この頃描いたのは・・・



『とかけのいる風景』
(1932年) 紋別市立博物館蔵



『かやの中』
(1934年) 紋別市立博物館蔵



第3回旺玄社賞受賞『晩夏の庭』
(1933年) 紋別市立博物館蔵

昭和7年(1932年)3月 横浜に戻り、結婚を決め、初の個展を開き、伊豆の式根島に絵の制作を兼ねた新婚旅行に行きました。

幸せな結婚生活。しかし、生活は苦しい。子供も授かり、仕事につくことを決断します。



写真は、滋賀県庁時代の村瀬真治

昭和10年(1935年)2月に村瀬真治は滋賀県庁に工芸指導官として赴任しました。琵琶湖まつりのポスターデザインに始まり、工芸品の製作指導、博覧会の主任、ガイドブックの表紙やカット画、新聞の挿絵制作等、さまざまな業務に携わりました。昭和14年(1939年)2月には、戦争の進展に伴い、統制工業事務取扱も囑託。昭和15年(1940年)には滋賀県観光事務、観光協会幹事を囑託されました。昭和17年(1942年)の春、県の囑託を辞め、朝鮮・満州へ絵行脚旅行に出掛けました。帰国後は、名古屋の松坂屋で作品展を開催しました。

朝鮮・大沢にて (1942年)



昭和 19 年(1944 年)4 月、子どもたちの疎開も考え、室蘭高等家政女学校に赴任、美術教師となりました。また、牧野虎雄より旺玄社の北海道支部長に任命されました。

・・・紋別へ、流水と出会う・・・

室蘭高等家政女学校の川島武治教頭が、紋別高等学校の校長として赴任した時、学校には 6 年間美術教師がいなかったことから、村瀬真治は川島校長に紋別高等学校行きを誘われました。

昭和 24 年(1949 年)1 月、村瀬が紋別に下見に来た時、もう流水が接岸していました。そして村瀬は流水を見て青年時代から探し求めていたモチーフにやっと出会えたと直感したそうです。



室蘭高等家政女学校勤務時代(昭和 20 年頃)

【紋別高校での村瀬真治】

昭和 24 年(1949 年)2 月 15 日、紋別高等学校に正式に赴任した時、村瀬真治は生徒への挨拶で「午後の光線を浴びて輝く流水を見て、この学校に来ることを決めました。」と話したそうです。



紋別高等学校での授業風景

【村瀬真治の流水画】

紋別に来て、流水と出会い、探し求めていたモチーフが見つかった村瀬真治はすぐに流水の絵の制作にとりかかります。

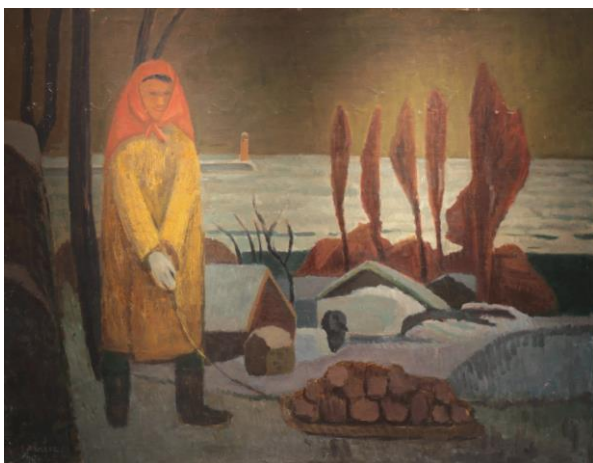
この絵は昭和 24 年(1949 年)2 月 21 日に描かれた油絵です。

2 月 15 日に正式に赴任して 1 週間のうちに描かれたもので、最初に描かれた流水の油絵かと思われます。キャンバスではなく板に描かれています。

流水絵画の初期の作品は写実的で、流水は風景の一部として描かれるのが特徴です。



『氷結港』1949 年(昭和 24 年)2 月 21 日 紋別市立博物館蔵



『流水の頃』1957 年(昭和 32 年)
第 32 回道展出品作品 紋別市立博物館蔵

道展会員として、道展の場で流水の絵を発表するまでには約 8 年を要しています。流水をどうとらえればよいか迷いぬいたといえます。



『凍る港(紋別港)』1960 年(昭和 35 年) 第 35 回道展出品作品

少しデザイン的要素が加わって、直線的な氷の表現と空の曲線を対比させています。海を緑色で表現するなどの工夫もなされています。



写実表現です。
流水の一般的イメージに近いのか、人気のある作品です。

『夕映え』1962年(昭和37年) 紋別市立博物館蔵



『春水離岸』1966年(昭和41年) 紋別市立博物館蔵

この頃、村瀬はオーロラに非常に関心を持っていました。
次々と形を変え、色を変える純粋で自由な存在。
村瀬の絵に大きな変化が現れるターニングポイントになっています。

市民会館緞帳の下絵作成にまつわる作品です。村瀬の個性がとてよく出ている代表作のひとつとっていい作品だと思います。



『彩りの朝』1971年(昭和46年) 紋別市立博物館蔵

緞帳に採用された作品とよく似た構図の作品です。緞帳下絵の構想段階で描かれたのではないかと考えています。村瀬真治を象徴するような作品です。



『あけぼの』1971年頃(昭和46年頃) 紋別市立博物館蔵



『春のうたげ』1974年頃(昭和49年頃)

画面斜め左下は写実的な表現、斜め右上は幻想的な表現がされた作品です。喜信堂の包装紙として長年紋別で親しまれました。



『オホーツク春のロマン』1974年頃(昭和49年頃)

流水が絶妙に配置され、幻想的な色彩とあいまって不思議な雰囲気作品に仕上がっています。

この後も、流水の絵を追求していこうと思っていたのですが、昭和50年(1975年)1月に脳出血で右半身が不自由になってしまいます。とても残念ですが、村瀬は懸命にリハビリを行い、昭和62年(1987年)に80歳で亡くなるまで左手で制作を続けました。



昭和46年(1971年)には、翌年に控えた市民会館開館にあたり、大ホールの緞帳の下絵を制作。『オホーツクのあけぼの』紋別市市民会館蔵

流水は始原性、純粋な心を描く媒介として理想的なモチーフであり、子どものような純粋な心で、老練な技巧を持って描いたのが、村瀬真治の流水画です。

長期にわたり継続的に続けられた流水の絵画展。紋別が流水観光を推進するにあたり、紋別と流水のイメージや知名度向上に村瀬真治は大きな役割を果たしました。
村瀬真治の絵画は「まちなか芸術館(幸町3)」においてご覧になれます。

紋別での村瀬真治の業績



紋別高校で18年間にわたり数多くの生徒を育て、アトリエでの絵画教室も通算18年続けました。昭和38年(1963年)に始まった「もんべつ流水まつり」では、第1回から第3回までのポスターをデザインしました。

第1回もんべつ流水まつりポスター

〈発行〉

紋別市教育委員会
生涯学習課 社会教育係
〒094-0006
紋別市潮見町1丁目4番3号
(市民会館内)
☎ 24-2416 FAX 23-5603